

志賀町長 稲岡 健太郎 様

志賀町議会議長 福田 晃悦

一 般 質 問 に つ い て

3月4日の本定例会第2日目において、下記の質問をされる予定ですので、あらかじめ通告します。

凡 例 一括質問一括答弁方式：□ 一問一答方式：■

質 問 要 旨	質問者	答弁者	備 考
<p>■ 1 <u>復興に向けた志賀町の再建について</u> 新しくスタートする行政サービスや今後の観光振興と地域経済の活性化について、対策と方向性を聞く。</p>	小林 克嘉 議員	町長	
<p>■ 2 <u>地域の高齢化や世帯減少する現状について</u> 町内の各地域では、地震の影響で空き家の増加や人口減少が加速し、区の運営に苦しい思いをしている。 今後の区の運営や地域コミュニティの維持に対し、どのようなサポートと対策を考えるか。</p>	〃	〃	
<p>■ 3 <u>災害公営住宅について</u> 災害公営住宅の整備について、町が重要視する点、目標、コンセプトを聞く。 また、入居希望者・利用者のニーズについてどう考えているかを聞く。</p>	〃	〃	
<p>■ 4 <u>復旧・復興事業者のトラブルについて</u> 未曾有の大震災から1年余りが経過した。昨年12月に国の災害査定も終了し、復興事業が加速する段階へと達した。 そのような中、復旧事業者によるトラブルが散見される。車両によるトラブルや交通事故、家屋解体時に近隣とのトラブルが発生するなどが報道されており、本町の民宿組合においても宿泊費の未払いや、悪質な什器備品の損壊などが報告されている。 行政が民間の事案に介入することは困難と承知するが、長く続く復興事業による不安を住民が抱かないよう、未然防止対策や安心感を与える周知活動が必要と考えるが、町長の考えを問う。</p>	南 正紀 議員	町長	

<p>■ 5 児童生徒に対する交通規範教育等について</p> <p>近年の交通移動手段の多様化は目を見張るスピードで進んでいる。利便性や時間効率の向上など大きな恩恵を受ける一方、利用者の低い交通規範意識や、それらに起因する交通事故やトラブルの発生が社会問題化している。電動アシスト付きを含む自転車、シニアカー、電動キックボード等運転免許を必要としない乗り物については、道路交通法や交通規範の教育を受けずに利用する方も多いと思われる。是非とも学校における指導・教育に加え、広く町民への啓発活動が必要と考える。</p> <p>また、本県は自転車乗車に対し保険の加入を義務付けている。罰則のない制度なのですべての利用者が加入することは困難と考えるが、本町の自転車通学をしている生徒については、どの程度保険に加入しているか、加入促進の実情はどうか説明を求めるとともに、自転車通学期間における保険加入料の助成を求める。</p> <p>■ 6 庄田副町長在任中の所感について</p> <p>庄田副町長におかれては、着任以来、豊富な行政経験や見識に加え、県との橋渡し役等、町政運営に大きな役割を果たしてきていただいた。また、各種会議においては説明員の答弁に際し、絶妙のタイミングで補足説明を行うなど、議会側としても安心感をもって接していた。</p> <p>今回、任期満了となるが現在において新たに続投されるかどうかは知る由もないが、ここで在任中の所感をお聞かせいただきたい。</p>	<p>〃</p> <p>〃</p>	<p>教育長</p> <p>副町長</p>	
<p>□ 7 道路穴ボコ損傷箇所の即修を</p> <p>発災から一年、最大限の道路復旧、補修が行なわれているが、一方で小さな損傷箇所が冬期間中に進行して、軽視出来ない大きな損傷箇所となっている所が多々ある。</p> <p>国道、県道、町道問わず大がかりな復旧補修が待たれるが、同時並行で、目の前の小さな穴ボコ等の損傷箇所の早急な対応を求める。</p>	<p>中谷 松助 議員</p>	<p>町長</p>	
<p>□ 8 町内の訪問介護事業所を守りたい</p> <p>今、高齢者の在宅介護を支える訪問介護事業所が、各地で次々と休止、廃止に追い込まれている。本町では訪問介護事業所は2箇所あるが、国からの報酬引き下げ、ガソリン等の高騰、人手不足等々、営業努力だけでは経営が成り</p>	<p>〃</p>	<p>〃</p>	

<p>立たない。</p> <p>本町内の訪問介護事業所を守るためには、町からの支援が必要だと思うが、せめて、報酬引き下げ分を町が補填することや、高くなっているガソリン代を補助するなりして、営業と雇用を支えて、町内の訪問介護事業所が持続出来るように支援して頂きたい。</p> <p><u>□9 町立公民館施設等の早期復旧修繕を</u></p> <p>いくつかの町管理の公民館等施設が破損したままの状態となっており、特に富来地域の公民館等施設のいたみ具合が悪い状態となっている。私の地元の熊野公民館も屋根はブルーシートが掛かっており、壁・天井は穴だらけとなっている。</p> <p>公民館等施設は地域のいこいの場、交流の場として、重要な施設であり、地元の諸団体も復旧修繕を要望されているところである。これ以上の地域のシンボリック施設をなくさないで頂きたいが、いかがか。</p> <p><u>□10 補聴器購入補助制度の創設を</u></p> <p>難聴は認知症の最大のリスクの一つであるとの認識が広がっており、補聴器は軽、中度の難聴状態時からの装着の方が良いと聞く。早目の補聴器の購入が望ましい訳だが、決して安くないのがネックとなっている。</p> <p>本町でも、県内で先駆けて、補聴器購入補助制度の創設を求める。</p> <p><u>□11 原発ゼロ、志賀原発廃炉を求めよ</u></p> <p>福島第一原発事故から丸14年が経とうとしており、約2万人以上の方々が避難状態のままである。そんな中、国はこの間言ってきた「原発依存度の低減」から、「原発の最大限活用」という事故の教訓を投げ捨て、財界や電力会社の要求を丸のみした露骨な原発回帰である。</p> <p>今訴えたいのは、この地球の気候危機打開に本気で取り組まなければ、取り返しの出来ないところまで来ているということである。省エネ、再エネ促進の足かせになっている原発をゼロにする、本町での志賀原発は即刻廃炉にすることを国、北陸電力に求めて頂きたいと思うが、いかがか。</p>	<p>//</p> <p>//</p> <p>//</p> <p>//</p>	<p>//</p> <p>//</p> <p>//</p> <p>//</p>	
<p>■12 人口減少社会における子どもたちと町の未来について問う</p> <p>本町では、人口減少がさらに深刻化し、特に子どもたちの減少が顕著である。人口減少社会の中でも持続可能な発</p>	<p>梢 正美 議員</p>	<p>町長</p>	

<p>展を可能とするには、こどもたちが安心して成長できる未来を作ることが重要と考え、次の点について聞く。</p> <p>①令和5年第2回定例会で質問した「少子化対策」に対し、「子ども・子育てに関する対応をワンストップで行い、切れ目のない支援を継続・強化しながら実施している」と答弁があったが、その後の取り組み成果と今後の施策を問う。</p> <p>②同定例会において「こども家庭庁の設置」の質問に対し、所管課長から「当事者のニーズをその時々到的確に把握しながら更なる子育て環境の充実を図っていく。」と答弁があったが、その後の実施状況とその結果を踏まえた今後の施策を問う。</p> <p>③令和5年5月に「こどもまんなかアクション」がスタートしました。少子化対策において、地域社会、企業、そして個人の意識改革を促し、より良い子育て支援環境を作り出す効果があると考えられるが、本町での登録と今後、効果的な取り組みを求める。</p>			
<p>■13 富来地区内に計画されていたアーバンスポーツ施設整備箇所の今後を問う</p> <p>令和5年第3回定例会で「アーバンスポーツ施設整備箇所の今後」を質問した際、「若い世代を中心として身近で気軽に始められ、SNS を使った情報発信で施設の魅力を広げ、県内外から多くの利用者が訪れることを想定し、既存の観光施設と併せて経済効果に繋げ、スポーツツーリズムの実現に取り組む」との答弁があった。その後、能登半島地震で被災し、整備した部分が壊れてしまっており、被災した町民の生活再建を優先するため、工事出来形での完成として工事を中止とした。</p> <p>多くの人々が訪れるようなハード、ソフトの取組は大事と考えるが、今後の展望を聞く。</p>	//	//	
<p>■14 旧土田小学校放射線防護施設を地域コミュニティの拠点として平時の利活用を求める声があるが、町の見解を問う</p> <p>先般の町長の提案理由説明で「避難拠点施設整備」については、平時は生涯学習やスポーツの拠点としての機能を有し、大規模災害時には、多数の避難者を収容できる複合型の避難拠点施設を整備する事業にふれている。既存の旧土田小学校放射線防護施設も有事の際には多数の避難者が収容可能な重要な拠点と考えるが、今後の利活用の見解を</p>	//	//	

<p>聞く。</p>			
<p>■15 風力発電所の計画中断について</p> <p>昨年暮れに志賀風吹岳・虫ヶ峰風力発電事業が中断するという事を耳にした。稼働中、あるいは計画中の風力発電の予定地は、富来川南岸断層、あるいは富来川断層が確認されている場所にある。今後、断層が動かないという保証は全くなく、土砂崩れをさらに拡大させるようなものを山の尾根に作らせるわけにはいかないと思うが、町の考えを聞く。</p> <p>また、建設中断の理由が「風車の景観、騒音影響等の不安払拭は現状では難しい」とのことである。今回の地震の影響で林道などは土砂崩れで大きな損害を被っており、復旧がいつになるかわからないということと併せて、他の計画中の事業所にもとりあえず中断し、その後撤退する手法で働きかけてみてはどうか。</p> <p>さらに、トキの放鳥予定地決定も間近に迫っている。かつて羽咋郡稗造村だった地区に2か所も予定地が指定されていることも考慮し、賢明な判断を事業所に迫るべきと考えるが、町の対応を聞く。</p> <p>■16 文化財専門職員の採用について</p> <p>能登地区において文化財専門職員がいないのは志賀町のみとなる。震災後の文化財整理・修復等で益々必要性が増すと思われる。</p> <p>能登全市町の文化財専門職員・美術館学芸員、文化財事務員等、展示・収蔵施設などの資料によれば、専門職員、展示・収蔵施設がないのは25年度では本町のみという恥ずかしい現状であり、町のさらなる文化発展の要ともなる人材を募集すべきだが、26年度に向けた採用計画を聞く。</p> <p>■17 福島原発事故14年について</p> <p>福島原発事故から14年になろうとしている。報道では福島第一原発が立地する双葉町は、原発事故後11年にわたって全町避難を強いられていた。</p> <p>自然災害のみならず原発事故との複合災害となることは避けられない時もあり得るが、本町としても福島原発事故後の事態の推移を注意深く見ていくことが求められる。</p> <p>福島原発事故後、14年を経過しても町づくりの厳しい現状について所感を聞く。</p>	<p>堂下健一議員</p> <p>〃</p> <p>〃</p>	<p>町長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>	

<p>■18 避難者による避難所運営の関わりについて</p>	<p>〃</p>	<p>〃</p>	
<p>48時間以内でのTKB（トイレ、キッチン、バス）の整備や避難所の在り方等について、全国の自治体では具体的に整備をすすめているニュースを昨今、目にする。</p> <p>避難所に長期避難となる時は、避難者にも避難所運営に協力をお願いすることが必要と考える。避難所運営については課題も多く挙げられており、研修や訓練も必要かと思うが、町ではそのような考えがあるかを聞く。</p>	<p>〃</p>	<p>〃</p>	
<p>■19 稗造地区の山の土砂崩れの調査について聞く</p>	<p>〃</p>	<p>〃</p>	
<p>昨年、防衛省OBの方から鶉野家バス停からドローンによる穴水方面に広がる県道沿いの地域を撮影した映像写真の提供を受けた。映像からは普段見ることのできない場所の被害状況も確認できた。その際、地保地区・県道が土砂で通行止めとなった山側は、専門家を交え、現地踏破し、被害状況を確認した方が良いというアドバイスがあった。</p> <p>今後の地震対策も考慮し、富来川断層や富来川南岸断層への地震の影響も含めて順次調査をすべきと考える。</p> <p>また、調査結果によってはハザードマップの改定も必要となるが、対応を聞く。</p>	<p>〃</p>	<p>〃</p>	